

第1回 豊岡市社会教育推進委員会 会議録

- 1 日 時 2025年5月26日（月）午前10時00分開会 11時50分閉会
- 2 場 所 豊岡稽古堂 交流室3－1
- 3 出席者 委員9名
清國祐二委員、山下恭子委員、細川仙一委員、小松和巳委員、佐藤春華委員、
由留佐泰子委員、貝口志保委員、加芝真理子委員、太田博章委員
※欠席 赤松明生委員
教育長、教育次長、教育総務課長、教育総務課参事、教育総務課社会教育係長
関係課
多様性推進・ジェンダーギャップ対策課、文化・スポーツ振興課、社会福祉課、
学校教育課、図書館 ※地域づくり課欠席
- 4 議 事 (1) 説明事項
ア 社会教育基本計画について
イ 社会教育推進委員会の協議内容について
(2) 協議事項
ア 社会教育基本計画にかかる取組内容について
イ 社会教育関係団体に対する補助金について

会議録（要点記録）

注）この会議録は、発言内容を一言一句正確に記録したものではありません。発言内容をもとに一部表現（文言）を変えて表記している箇所があります。

1	開会
2	委嘱状交付
3	あいさつ（教育長）
4	委員紹介（自己紹介）
5	豊岡市社会教育推進委員会設置要綱について
6	委員長・副委員長の選任 立候補、推薦なし 事務局提案のとおり選任 委員長：清國祐二委員、副委員長：太田博章委員
7	議事
(1)	説明事項
議長	早速議事に入ります。 議事(1)説明事項 ア社会教育基本計画について、事務局より説明をお願いします。
事務局	《事務局説明》 資料「豊岡市社会教育基本計画」
議長	初めてご覧になったという委員さんが多いので、ただいまの説明につきまして、ご質問やご意見等がございましたら頂戴したいと思いますがいかがでしょうか。
(委員)	*質問・意見なし
議長	後程の協議にも出てまいりますので、その時に関連づけなどをしながら、理解を深めてまいりたいと思います。 議事(1)説明事項 イ社会教育推進委員会の協議内容について、説明をお願いします。
事務局	《事務局説明》 資料なし「社会教育施策に関する意見聴取について」 資料5「社会教育関係団体に対する補助金に関する意見聴取について」
議長	これからこの委員会がどのような協議を行わなければならないのかということについて、説明をいただきました。大きくは2点でございました。これに関しましてご意見等はございますか。次の協議事項の根拠をお話いただいたということでございますので、よろしいでしょうか。
(委員)	*質問・意見なし
(2)	協議事項
議長	それでは協議事項に入ります。 議事(2)協議事項 ア社会教育基本計画に係る取組内容について説明をお願いします。
事務局	《事務局説明》 資料3「社会教育基本計画 評価・検証実施要領」 資料4「社会教育基本計画評価シート」
議長	冒頭のところで確認をいただいた、生涯学習、社会教育に関わるような事業を、コミュニティ、図書館など別の計画でもやっておられます。どこも人々の学びを推進する事業をやっておられますので、それをつないでいこうということで、一覧にすると、このようなものが出来上がりますということです。基本理念にもありますが、「自分づくり」という観点から見ると、他の計画では、このような施策を打っていますということでした。 この4つ、4枚のシートに見える化をしていただいています。これらをご覧いただいて、何かお気づきになったことや確認をしたいこと等がございましたら、ご意見をいた

	だければと思います。 現段階では、取組内容のところだけですので、おそらく、次の回で各課の取組の実態が出てくると意見はより言いやすいのかもしれませんが。本日のところは、これらの視点が、例えば、「自分づくり」のところに書いてあるものが、ものすごく「生きがいくくり」と絡んでいるので、次のところに再掲した方が観点としては良いというようなご意見でも結構です。それぞれ関連する計画に関わっていらっしゃる方も多いと思います。それぞれのお立場から何かご意見をいただけますと非常にありがたく存じます。
委員	2 番の図書購入のことです。年間 6,700 冊購入ということですが、子どもの図書離れというのはかなり進んでいる。せっかくなのでいいものを買っていただいても、活字離れがかなり進んでいる状況なので、図書館が学校に実際に足を運んで、こんないい本があると紹介するような場を設けていただきたい。興味のある者はどんどん図書館にも行くのですが、特に小学校中学校に紹介していくということを積極的にしていただいたらありがたいと思います。要望すれば来ていただけるというのがありますが、できたら積極的にそういうことをしていただきたい。特に「自分づくり」、教育がやっぱり大事です。小さい時からそういうのを習慣づけていけばいいのではないかと思います、いかがでしょうか。
議長	そういう取組は計画もされていると思いますが、ここに書かれていないこともあると思います。そのあたりについて、関係課からご説明をお願いします。
図書館	先ほど委員がおっしゃった、子どもたちへの本の提供というのは、当館としても長年の課題としてあります。 (評価シートには) 書いておりませんが、我々、司書が学校の方に行かせていただいています。図書委員会に入って、子どもたちとおすすめの本のポップ作りを一緒にして、伝えていくということをさせていただいています。 図書館に子どもたちが来ない。子どもには限らないですけども。図書館で待っているだけでは利用が伸びないということも正直あります。そういった中で、子どもたちがいるところに出かけていこう、人がいるところ、他に本があるところに出かけていこうというふうにさせていただいております。そういう取組は継続的にさせていただいているところです。
議長	取組はされているということですので、また工夫できる範囲の中でその辺りお願いいたします。
委員	市内を車で走っていて、いろんなところに銅像が立っていますが、実際にこの人が何をされた方なのかわかりません。子どもたちはそういうことを学校で教えていただいているのか常々疑問に思っていました。 地域の偉人について学ぶことが、学校の中であるかどうかかわからないですが、生涯学習的にも。また、ずっと以前、市の広報の一番後ろ面に時々載っていたような記憶があります。偉人や地域のことをもっと子どもにも知ってほしいとずっと思っていました。
議長	そういうふるさと学習はもう当然やっておられると思いますが、いかがでしょうか。
教育長	「ふるさと学習」はすべての小中学校でやっています。先ほど言われた広報の後ろには、豊岡市の偉人や先人の著名な方が載っていて、どんな功績があるのかということが書いてあります。「ふるさと学習」は豊岡の「ひと」と「こと」と「もの」について勉強します。 それから、道徳の副読本で、東井義雄さん、植村直己さん、竹野の書家の仲田光成さん等、こんな人がいましたという勉強もやっています。銅像については僕も初めて聞きました。それも確かに学習材ですから、どんなものかまた調べてみたいと思いますが、あらゆるものを材料として、ふるさとの「ひと」、「こと」、「もの」について勉強しているという実態があります。それはこの社会教育の計画ではなくて、「とよおか教育プラン」に掲載しています。
議長	大いに「まちづくり」にもつながりそうです。心を育てる、耕すみたいなことですので、今のご指摘は、本当にありがたかったと思います。
委員	多分その銅像は、例えば水道の偉人とか防災の偉人とか、それぞれの縦で所管される

	人たちの銅像としていろんなところに立っている。興味があればそういう人たちは調べればわかりますが、まちの中を歩いていて、銅像視点でこんなものがあるということの気づきに答えてくれるような情報というのは、もしかしたらないかもしれません。意見としては非常に面白いと思いますので、そういう視点でも何らかコメントを残して、できることがあればお願いしたいです。
議長	その他いかがでしょうか。
委員	こちらの計画を拝読していて、学びとしてインプットはすごく多いのかなという反面、アウトプットの部分がもう少し増えてもいいと考えています。 今、市で実施されている内容のインプットとアウトプットのバランスについて、どうお考えなのかをお聞きしたい。それと、アウトプットが、この基本理念の「自分づくり」、「生きがいくづくり」、「つながりづくり」、「まちづくり」に大変重要だと思います。学びとしてインプットしたことに関して、自分から感想を言うとか、そこに批判的な視点を持つとか、そういうものを表現することとか。あとは誰かから教えられることなく、いろいろな人の人生の中で会得されたいろいろな知見があって、それぞれの人が自己表現をする中で、「生きがいくづくり」につながったり、それが「つながりづくり」につながったり、「まちづくり」につながったりすると思います。そういった一人一人の市民の方が、アウトプットできる場がすごく重要だと思っているので、今のところのバランス感をお聞きしたいと思いました。
議長	重要なご意見、ご指摘だったと思います。 どうしても行政サービスの範囲内で考えると、こういう計画が、何が提供できるかということに偏るのは、本当に委員のおっしゃるとおりだと思います。アウトプットというのは、市民に委ねられるみたいなのところがありますので、そのサポートをどうするかということですよ。 その成果の活用とか発表とか、そういったところが、おそらく、それぞれの計画の中にも触れられているとは思いますが、そのあたりについてコメントをいただくと、落ちていてまた見られるかなと思いますが、いかがでしょうか。
教育長	学校教育も全く同じです。昭和の時代はずっとインプットし続けてきて、それが生きる力につながらなかったという大反省のもとに、今はアウトプット仕様、これが多様性、ダイバーシティなんです。いろんなアウトプットがあって、それを重ね合わせて、例えば私たちのまちづくりはこんな方向でいこうっていうのは、ものすごく大切なことです。それを、素晴らしい講釈を聞くだけではまともらないので、違っていてもいいし、異なっていてでもいいけれども、自ら発信するのはすごく大事だと思います。 ただ、その施策にどう落とししていくかというのはかなり難しい問題があり、どう評価するかというのも難しいですが、その視点は本当に大事だと思います。今、所管課が聞いていますので、それがどう落とせるかということは、これから精度を上げていきたいと思っています。
議長	12月に関係プランの計画の評価をしていただくときに、一番右側に、なぜこういう自己評価をしたかという理由を書くところがあります。今のご意見、ご発言のところを、ぜひ、そこに反映させていただいて、それによってどんな姿が見られたとか、発表の機会が増えたとか、そのあたりを書いていただくと、委員の方の思いが、ひょっとしたらそこに現れるのではないかと思います。
委員	先ほど、アウトプットという言い方をされましたが、重要なのはバランスだと思います。 計画を策定するときに、4つの「づくり」についていろいろと意見を交わしました。「自分づくり」、「生きがいくづくり」、「つながりづくり」、「まちづくり」、この4つを集約する上で、非常にいろんな意見を交わして策定しました。 例えば、僕は割とアウトプットが好きなので（いいのですが）、何か学びたいと思ったときに、学べる場があるかどうか、そういう場所に行けるかどうか大事で、前に、前にという人はもちろんそういうことができます。でも、必ずしもそういう方ばかりではなくて、そもそも受け入れることが難しいとか、本当にいろんな方がいらっしゃる中で、

	一番市民の方に理解をいただけるようなこの4つの「つくり」を形にさせていただきました。 今おっしゃったようなアウトプットとして、自分は「だいかい文庫」に非常に興味があります、「だいかい文庫」では、先生になれる生徒になれるという場を作ってもらっているので、そういう場を作られたら、そこに興味ある方は来られます。そもそも行政が、インプットだけでなくアウトプットというものを、バランスよくこの計画の中や文言の中に取り入れられるかどうかというのはすごく大事な意見だと思います。そういう観点からも、いろんな分野でぜひご意見をいただけたらありがたいと思います。
議長	そのほか、この機会ですのでぜひご発言をお願いします。
委員	豊岡に図書館本館があって、旧町に行ったら分館があります。但東町から豊岡まではすごく遠くて、豊岡市の中心の図書館で展示会等いろんなことをされても、よっぽど興味があって行こうと思わない限り行けない。私も車の運転ができないので、遠くに行くのは足が向かないところがあります。小さくてもいいので、分館でも展示会やイベントをしていただいたら皆さんの足が向くきっかけにつながるのではないかと思います。もちろん本の貸出とか、いろんな本がある場所があるというのはすごく嬉しいですが、せっかくイベントがあっても、すべて公共のバス等に頼らないといけな。私以外にもそういう方がいらっしゃるかもしれない。結構出ることハードルがあるので、せっかく小さくても図書館があるなら、そちらでも何かしていただけたらありがたいと思います。
議長	ご意見いただきましたので、アウトリーチはされているとは思いますが、何か（発言）いただけますか。
図書館	おっしゃったとおり、確かに分館でイベントや発表会はあまりできていないのが実情です。おはなし会とか工作会とか、子ども向けの行事はさせていただいていますが、大人向けはなかなかできていない状況です。 ただ、昨年度は、本館で外部の方をお呼びして、遺言や相続に関する「終活講座」をさせていただきました。そしたら、ぜひ、日高でもして欲しいという声がありまして、今年の夏には、コミュニティと共催という形で、同じ方をお招きして開催します。このように少しずつ広がっていますが、各分館の職員にも今回いただいた意見を共有して、少しでも近づけるようにしたいと思います。
議長	コミュニティとの共催でということですが、このように一覧になると、それぞれ独立した計画ではありますが、こことここをつないだら、こんなこともできるのではないだろうかという発想にもなりそうな気がしました。今おっしゃっていただいたように、単体で図書館がするものというよりは、いろんなところが協力してすると、実現可能性が高まると思いながら伺いました。 その他いかがでしょうか。
委員	コミュニティセンターと図書館のコラボという形で言えば、但東は子育てセンターが図書館の隣にあります。合橋地区のコミュニティセンターと但東の分館がコラボして、夏休みに絵本に出てくる食べ物のクッキングをしようとか、夏休みに子ども向けで、コミュニティセンターが「宿題やっちゃおう作戦」と言って、コミュニティセンターの机を利用して子どもがそこで勉強する。お昼は図書館の人たちが読み聞かせがてら絵本を読んで、そこに出てくる食事を一緒に作ったりしている。確かに但東分館は小さいですが、コミュニティセンターと連携すると少し大きなことができます。それはいいことだと思います。 私は旧豊岡市在住で普段は本館に行ったりもしますが、但東分館は本当に図書館というより図書室みたいな感じで、すごく格差はあると思います。子どもたちも高校になれば多くが市街地に来るので、本館を利用することはできますが、中学生まではなかなか市街地に出ることができない。私も中学校、高校のときに、家ではなかなか勉強できないので、当時の図書館は市民会館の3階でしたが、図書館に行って学習室みたいなちゃんとしたところで勉強していました。但東の小学生、中学生はそういう場所でできない。割と但東の学生は真面目なので、ロビーの机で、あまり灯りも明るくないけど勉強されます。夏休みはクーラーがついているから、来て勉強されて、すごく熱心です。こんな

	いい真面目な子たちだったら、ああいうところで勉強させてあげたい。図書館の作りの関係でそんなに広くもないし、机をクリアボードみたいなもので仕切っておられますが、どうにかならないかと思っています。今、学習席がないのは但東の分館だけなので、どこかでできないかと思います。 それから、私は子育てセンターに勤務している関係で、在宅で育児をしているお母さん方の目線になると、図書館で、「ママパパへの読書タイムプレゼント」という、保育をしてもらって、お母さん方に30分でも1時間でも自分一人で本を読める時間を持ってもらうというサービスがあります。すごくいいことで、但東の方でも利用する方がおられます。 「おんぷの祭典」も、保育してもらってコンサートに行ったり、また親子で一緒に生の音楽に触れるような機会もあったり、大分よくなっているとは思っています。でも、コミュニティセンター等で文化的な講座があっても、保育がないとお母さんたちは参加できない。親子で行ける分にはもちろんいいですが、この手話奉仕員養成研修事業は、今、育児をしている人が手話を勉強したいと思っても、子どもがいると行けない。全部が全部になると予算の関係もあるので無理だとしても、講座に保育があれば、家でずっと育児を頑張っているお母さんたちも少しリフレッシュするきっかけになる。講座を考えると、保育という視点も考えてもらったらありがたいと思います。
議長	大きくは2点あったかと思います。まず勉強室は別に図書館でなくてもいいですね。そういうスペースがあると、子どもたちの支援、サポートにつながるということです。 それから、保育中の保護者の方々に、学習しやすい環境づくりをとということです。
委員	私も小学校のときに、夏休み暑いので、豊岡市民会館の旧図書館に勉強しに行ったことがありました。 今、弘道小学校の地域ボランティアをしています。夏休みに子どもたちが勉強するところがないのではと思って、こちらからの提案で学習会を開きました。 学校内の図書室、涼しいクーラーが効いた部屋に、低学年1、2、3年でしたが、ボランティア4人で勉強や宿題を指導したことがあります。学校は夏休み空いていると思うので、利用されてもいいと思います。学校が無理だったら、各コミュニティのクーラーがよく効いた部屋でもいいのではないかと思います。 それから、私はほとんど家にいるような状態で、介護と家事でなかなか出かけることができません。実は今、リカレント教育に取り組んでいますが、通学できないので、完全オンラインでできる大学に通っています。社会教育の推進委員を、豊岡市のLINEで知りました。私の年代はやはり介護しながらとか、家事をしながら活動する年代です。なかなかどこにも行けないねって友達同士で話しています。自宅にしながら情報が見られるような環境、SNS、LINE等の充実、あと電子書籍です。なかなか図書館にも行けないので、私は勉強するにあたっては電子書籍ばかり使っています。その辺の充実もしていただいたら、出にくい方にはすごくいいのではないかと思います。
議長	切実な声を届けていただきました。 予算の関係ですべて答えるというのは難しいところですが、行政ですので、それぞれの計画は、ある一定の縦割があります。今回、そこに横串を刺すというのが社会教育計画の大きなねらいです。そこが見える化されることによって、何か新しい発想が生み出されるということも、大変重要なことだと思いました。そういった視点を今後も持っていただけるといいと思います。当初は全く考えていませんでしたが、例えば、課の枠組みを超えて、これをきっかけに何か新しいことが始まったということが、行政のプラスの評価として、何か見えるようになるといい。最後の「まちづくり」のところなのかもしれませんが、社会教育基本計画ができて、こうやって風通しがよくなって、あまりお金かけずにこういうことが実現しましたっていう。行政も本当に少ない人員で努力されていると思います。そこが報われるような記述ができるのであればいいと思います。そしたら、行政も頑張ったら報われるので、頑張りがいがあるというか、そういうことにつながると思いながら皆さん方の発想を聞かせていただいております。
委員	出石では、この前、子どものピアノと合唱団5団体の発表会をしました。ひばこ合唱団と言いまして、ひばこホールがあったときは、ステージの上ですごく華やかに発表会

	をしていました。今はひぼこホールがなくなってしまったために、その横にある、ものすごく古い体育館のようなところでしています。全員はステージに上がりませんが、ピアノだけで。歌う人は下の段です。この前はお天気が悪かったために、ものすごく大きな雨音がしていて、体育館なので音も言っている言葉もわかりにくかった。それでも、一番大きい方で 90 歳ぐらいの方まで、歌が大好きだということでやっておられます。だから、広くなくていいので、ここで発表できて嬉しいというような場が必要です。 それと、会場準備は全部自分たちでしています。みんな高齢化してきて、椅子出しから敷物から最後の片付けから、とっても大変になってきています。他のところに行けばいいホールがあるという話もしますが、お年寄りだと、車を自分たちが運転して行かないといけないとなると、遠くでは出られないという方もいます。またこんな会場をこんなふうに使えばいいんじゃないか等、いいご提案があったら教えていただきたいと思います。 ピアノの発表会も、ひぼこホールでしていたのができなくなって、今は但東振興局のホールを借りております。でも、但東のホールも、いつまで使えるかわからないという噂を聞いています。どこでしたらいいのかが毎年私たちの悩みです。今まであったいいところがなくなるのはすごく辛く感じます。子どももお年寄りも華やかな場で発表できていたのができないのは、もう悲しささえ感じています。何かいい意見、方法がありましたらよろしく願いいたします。
議長	アウトプットに関わる部分なんだろうと思いました。学びの成果、その活動の成果をしっかりと発表できる場が必要だということでした。 なかなか答えづらい話になるかもしれませんが、また、引き続きまして、行政としてできること、民間と協力しながらやることをご提案いただければと思います。 スポーツの方からいかがですか。
委員	私はスポーツのことしかよくわかりませんが、実は 3、4 年、5 年ほど前から、中学校の部活動の「地域移行」と言っていたのが、今、「地域展開」ということでやっています。スポーツ関係の人たちには何とか指導をお願いしますと言ってきましたが、現在 20 名弱ぐらいしか出ていないです。豊岡市全体で中学校も結構あるし、20 人、30 人では少ししんどいというようなことがあるので、気安くこれに参加ができるよう宣伝をしていただきたい。中学校の子どもは一番大事な時期で、スポーツ以外にも、ブラスバンド等いろんな種目があります。それらも大事ですが、やはりスポーツというのは、高齢になっても元気でやれるということがあります。中学校の子どもたちを指導しながら、自分も「自分づくり」というようなことにつながっています。豊岡市は（スポーツ協会が）6 協会ありますが、各協会とも頑張っていて、いろんな事業、行事をやってもらっています。「スポーツクラブ 21」もしっかりやってもらっていますが、この部活動の「地域展開」に関してなぜ少ないのか、もう少し協力してやってほしいと思っています。 私は日高地区ですが、11 月にスポーツ指導者講習会をしました。指導者向けの講習会を 2 年に 1 回しています。その時には 200 人ぐらい来てくれますが、なかなか部活動には手を挙げる人が少ないので、何とかならないかといつも考えてやっております。 スポーツ振興課の課長とも協力しながらいろいろとやっていますが、少し宣伝不足なところがあって、もう少し頑張っていきたいと思います。また、いい知恵があったら教えてください。
議長	今の点で、部活動ということも関連するので、そのあたり教育長、いかがですか。
教育長	部活動の「地域移行」から「地域展開」に変わったことをよく知っていただいてありがとうございます。 国はそういう方針出したんですが、ポイントは 2 つあります。さっきおっしゃったように、部活動の指導員を増やすという方法、もう 1 つは受け皿を作って、民が新しい部活動をやる方法。これが「地域展開」です。 指導員は 20 人ぐらいですが、これはよく集まった方だと思っています。 ところが、その 20 人は、やっぱり先生と一緒に指導につかないとちょっと困るんです、難しいんですということなので、自立した指導員にはなっていない。

	問題は、そういう人たちをいかに作るかということと、学校間で部活動の数に差があるということです。選択肢が限られているというのは最も不幸というか、子どもたちにとってはデメリットです。そういう子どもたちが、新たなダンスでもいいですし、あるいは料理とか、囲碁とか、今までと違うマルチな文化芸術活動を、豊岡市の中でも広めていきたいというのが方針です。部活動のあり方検討委員会で、宣伝してもっと増やしていこうということも含めて、これからやっていく必要があると思います。また協力していただきますようよろしくお願いします。
委員	はい、よろしくお願いします。
議長	スポーツの方もいろんな課題を抱えながら進んでいるということです。
委員	今、お話を伺っていて少し思ったことがあります。部活動がある意義って多分検討されていると思いますが、教室と家庭以外の役割とか、居場所があるということが意義なんじゃないかと私は考えています。そこで何かのスペシャリストになる人をどんどん増やしたいということが、もしかしたら第一の目的ではないのかもしれないと考えているんです。そういった意味では部活動、クラブ活動ということにかかわらず、学校外で学生がボランティアできる場所を増やしていくとか、そういった活躍の場を増やすとか、また違う役割を持てる場所につながりやすくするといった活動もありなのではないかと思っています。豊岡市でも、人手が足りないところとか、困りごとを抱えている事業者、団体、ボランティア活動の方などもあると思います。そこと学生がつながることで、困りごと、困っている人も、人手が足りない、余っているという課題も解消されて、かつ、学生も役割をもって自分が活躍できる場につながれるということもあるのではないかと思います。
議長	学校によってはボランティア部とか、高校では地域部とか、そういう部活のような活動で地域の支援をしているというのを聞きます。
委員	近大附属高校の生徒などは、「だいかい文庫」に来てくれて、ボランティアしたり、地域コミュニティに入っていったり、すごく活躍されていて、大人顔負けの意見を言う子もいます。社会に早くから出ていって、いろいろな人と関わってすごく大事なことなんだと見ていて思います。
議長	そういう若い方々の、中高生の活躍の場というようなご意見もありました。 もう欲しくてたまらない、喉から手が出るほどそういった若い力が欲しいというところが、行政の側にもあるのではないかと思います。それがうまくつながっていくような仕組みができるといいなという感じがします。何かそれに関連することで、関係課の方でも結構ですし、もうすでにやっている取組や、このようなことがニーズとしてはあるということがあればお願いします。
教育長	最終的にはそういうことなのだろうと思います。学校の匂いのないところで、居場所があり、それが文化、スポーツ、芸術関係のニーズを満たすというようなことだろうと思います。神戸なんかそうです。もう全く学校に関係ない人に、あと5、6年すれば全部部活動は地域に任せますとしています。そこで、得意な子どもたちが居場所となって活躍できて、不登校も解消するかもしれません。学校には行かないけどそこに行って、何か運動のお助けはできるという子どもが確かにいるかもしれないです。そういう広い視野で見る必要があるだと思います。もっと時間がかかるかもしれないですが、子どもたちもスタッフの仲間だという意識はすごくすてきなことだと思います。
議長	そうですね。ありがとうございます。
委員	神戸あたりは、法人関係のところがたくさんあるので、そういうところに野球だとかバスケだとか全部お願いしてやってもらうことができる。 去年だったと思いますが、市長が、来年の8月に地域連携に移行しますということをはっきり言われました。しかし、豊岡市には、法人関係は1件もない。法人化にできるような仕組みを作るといことも検討してもいいかと思っています。私たち日高ではそういうふうに考えたことがあります。なかなか法人って難しいことがあるので、もっとやりやすいように良い方法を考えてもらえたらと思います。

議長	何か関連することでもその他のことでも結構ですが、よろしいですか。 ～ 特に意見等なし ～ 現段階では、評価シートに取組の内容について書いていただいております。12月の段階で、その進捗、取組状況について、それぞれのプランの担当課から自己評価をいただいて、それをまた一覧の形でここで見させていただくというような流れになっています。自己評価の理由のところに、特記事項等があれば書いていただくようになっています。子どもから大人、高齢者まで生き生きと暮らしていけるような豊岡市になるために、この評価シートを見ると行政の取組がすべてわかるというようなものになっていけば、すばらしいものになると思います。 何かこの点について、大きな視点でも構いませんので、ご意見等ございましたらお願いいたします。お気づきの点がありましたら何でも結構です。 ～ 特に意見等なし ～ ないようでしたら、最後に私の方から申し上げます。特に4番目の「まちづくり」は、少しボリューム的に少ないというふうに見てとれるのですが、例えば、資料4の1枚目を見ると、「自分づくり」に書かれている取組で、結果的に「まちづくり」につながるものが複数あるのではないかと考えています。 例えば、地域コミュニティビジョン3番目のところですよ。これは、研修会で自分づくり、人づくりをしているというのは、「まちづくり」につながる人づくりだと思いますので、何かそのような関連づけもしていただけると【再掲】ということになります。新しく何か立ち上げるということではなく、それぞれの計画の中にある取組が、どういう展開をしていくのかということです。結果的に「まちづくり」や「生きがいづくり」につながっていくという取組は、積極的に複数跨って書いていただいて良いと感じました。そのことがひいては、まちの持続可能性につながるということがとても大事だと思います。まちが本当に豊かになるということは、個人の枠の中だけでというよりは、それが少しでも生きがいにつながったりしながら、結果的にまちがよくなるということだと思います。それぞれのプランが、本当にいきいきと活躍できる豊岡市ということにつながっていけばと思いますので、そんな視点がもう少し積極的にあってもいいと思ったところです。 最初の第1回ですので、なかなか詳細にわたってというのは難しいかもしれません。 ひとまず、協議事項の1番目としては、資料4をご覧くださいまして、この方向で関係のプランを今後実施していただいて、ここに自己評価を記入いただき、全体として基本理念に沿った生涯学習、社会教育が進行するように力を合わせていく。その方向で私たちも意見を出させていただいて、ひとまずこの評価シートのとおり進めるということでお認めいただいてよろしいでしょうか。
(委員)	* 異議なし
議長	ありがとうございます。 作業的には増えてしまいましたが、行政の関係課の皆さんにもご協力をよろしくお願ひしたいと思います。 それでは続いて、議事(2) 協議事項 イ 社会教育関係団体に対する補助金交付について説明をお願いします。
事務局	《事務局説明》 資料6「社会教育関係団体補助金一覧」
議長	社会教育関係団体に対する補助金について、ただいまご説明をいただきました。これに関しまして、基本的なことでご質問等がございましたら、お答えをいただいて、審議に移りたいと思いますが、何か確認したいことがございますか。
委員	内訳とかが全然書いてなくて、何にどうにかかっているのかわかりません。多分、ふさ

	わしいかどうかの判断はここに至るまでに議論されていることだと思いますが、これだけを見ると、大丈夫かどうか判断しづらいと思いました。内訳が書いてあるか、何か妥当だと思われた根拠みたいなものが書いてあると、見る側としても、初見で「ああそうか」ってなると思いました。
議長	ご意見として伺っておきたいと思います。私も他の社会教育委員の会議等に出させていただいていますが、細かなところまで審議をするというよりは、このような形で行われています。社会教育関係団体ですから公の支配には属さないということではありますが、公益性の高いもので、過去の経緯等も含めて、一定の委託金に近いような…。私が余計なことを言うと混乱してしまうかもしれませんが、このような形で行われることが多いです。その辺りの適正であるというようなことは、すでにご審議をいただいているということだと思います。
事務局	詳細な事業費の中身の何にどう使ってというところまでは想定していません。お出しできるとしても例えば事業費と、事務費等をどれぐらい使ってということは出せるかと思いますが、詳細な1つ1つ何を買ってというところまではお出しできないと考えています。
委員	何か意見が出しづらいと思った要素の1つです。
議長	それぞれの団体は、監査等を入れながら、適正に予算が処理されているかということは当然やっておられると思いますので、そこは信用していただきながらということだと思います。 他に確認をしておきたい事項等はございますでしょうか。 ～ 特に意見等なし ～ そういたしましたら、この補助金の支出について、お認めいただけますでしょうか。
(委員)	*異議なし
議長	異議がないということですので、了承していただいたということでお願いしたいと思います。 それでは、予定しております協議事項につきましては、これで終了いたします。 副委員長、何かございますか。
委員	今日、1回目の社会教育推進委員会ということで、各部署の方々、それから、市民を代表してお集まりいただいた方々、手探りしながらの意見交換になったかと思います。 今日はこれまで計画をしてきたものを踏まえて、これから新たに、また時間をかけてこの豊岡市としての社会教育の推進と、それからそれを見直していき、次年度につなげていくというサイクルのスタートになります。今日出てきた資料というのは、我々も策定には関わってきましたが、資料4の評価シートについては、それぞれの各部署がそれぞれに思ったことを「自分づくり」、「生きがいくづくり」、「つながりづくり」、「まちづくり」にそれぞれ落とし込んで出していたいただいた資料だと思っています。 それに対して今日いろんなご意見が出ました。見た感じは、「つながりづくり」のポイントがやはり高い。皆さんはそう感じてらっしゃるというのを、まず市民目線で今日受け取りました。 委員長からもありましたように、「まちづくり」が少しざくっとし過ぎていて「地域コミュニティビジョン」しか落とし込んでいない。ところが、今日いろいろと意見を聞いて、また委員長の意見をフィードバックして、図書館、男女共同、人権など「地域コミュニティビジョン」以外の計画でも、「まちづくり」の視点で、生涯学習に関する目標などが設定できるのではと思いました。その視点の落とし方というものの気づきをこういう場でしていただけたらと思います。 なので、最後にありましたように、あまり細かい情報まで我々が聞いてそこで議論するという場でもない。ある程度は部署から出てきたものに対してその目通しをするということ、気づいたことについては、市民の意見としてフィードバックするということの方が大事だと思います。ぜひ今日出た意見というのを持ち帰っていただいて、形骸化したも

	のではなくて、市民の方がよりよい暮らしを豊岡市で行えるよう実効性のあるものにするために、意見を出していきたいと思いました。そういう目線で今後も、皆さんにご協力いただきたいと思います。引き続きよろしくお願いいたします。
議長	ありがとうございます。 それでは、協議事項は終わりましたので、進行のほうを事務局にお返ししたいと思います。よろしくお願いいたします。
8 その他（事務連絡）	
9 閉会	